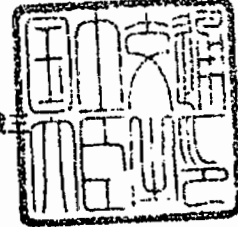


認定書

国住指第2844号
平成 19年 3月 29日

クリオン株式会社
代表取締役社長 松平 孝治 様

国土交通大臣 冬柴 鐵三



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第2条第七号及び同法施行令第107条第一号(柱:1時間)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP060CN-0261
2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称
ALCパネル被覆鋼管柱
3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容
別添の通り

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

ALCパネル被覆鋼管柱

2. 寸法および形状等

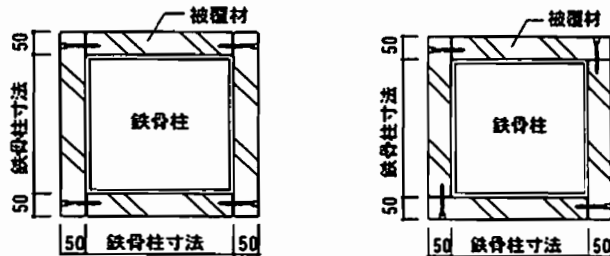
(寸法単位：mm)

項目	申請構造
断面形状	角 型
断面寸法	□-400~606 ₄ × 400~606 ₄ × H (階高による)

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項目	申請構造
①荷重支持部材	柱：角形鋼管 ・断面形状 300~550×300~550 ・厚 さ 9 以上
②被覆材	ALCパネル ・規 格 JIS A 5416 ・厚 さ 50 ₂ 以上 ・寸 法 幅 300~606 ₄ 以下 長さ 1100 ₃ 以上 3000 ₅ 以下 ・補強材 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)メタルラス ・規 格 JIS A 5505 ・板 厚 0.4 以上 ・間 隔 16×32 以下 (2)溶接金網 ・規 格 JIS G 3551 ・線 径 φ2.6 _{-0.05} 以上 ・間 隔 300×300 以下 (+10 または+7.5%のうち、いずれか大きい値) ・割 付 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする  (1) (2)

(寸法単位：mm)

項目	申請構造
③下地材	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする。 (1)なし (2)ALCパネル ・規格 JIS A 5416 ・寸法幅：30以上 厚さ：10～50 (3)繊維混入けい酸カルシウム板 ・寸法幅：30以上 厚さ：10～50

2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

項目	申請構造
①ねじ	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)タッピンねじ ・寸法 (呼径) $\phi 5.0$ 以上 $\times \phi 70$ 以上 ・間隔 455 以下 (2)木ねじ ・寸法 (呼径) $\phi 5.0$ 以上 $\times \phi 70$ 以上 ・間隔 455 以下
②補修材	セメント系補修材(既調合) ・組成(質量%) セメント 25～30 骨材 60～65 その他 2～5 ・使用量 5g以上/箇所(ねじ打ち込み後の凹部全域に充てんし、埋め戻す)
③シーリング材	(1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする。 [被覆材間目地処理なしの場合] (1)なし [被覆材間目地処理ありの場合] (2)アクリル系 ・使用量 30_{+10} g/m 以下 (3)ポリウレタン系 ・使用量 30_{+10} g/m 以下 (4)アクリルウレタン系 ・使用量 30_{+10} g/m 以下 (5)変性シリコーン系 ・使用量 30_{+10} g/m 以下

(寸法単位：mm)

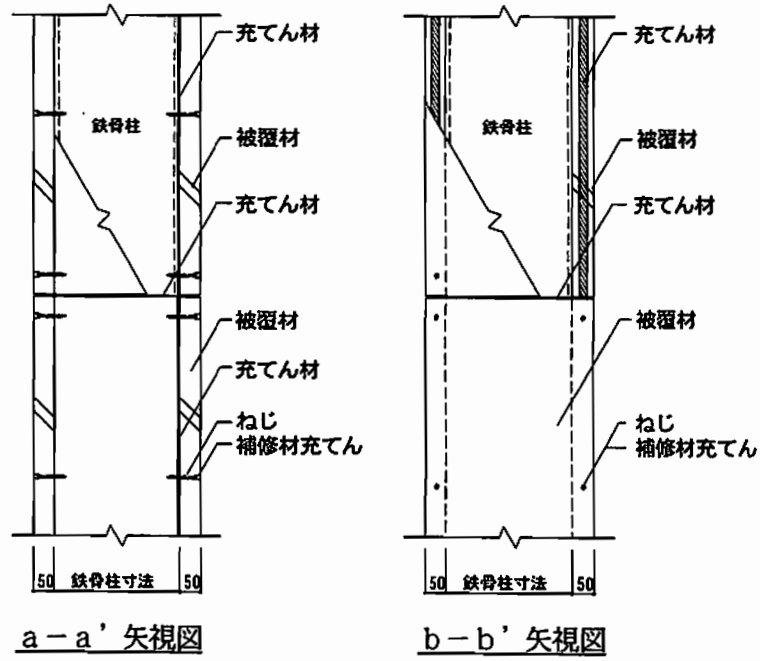
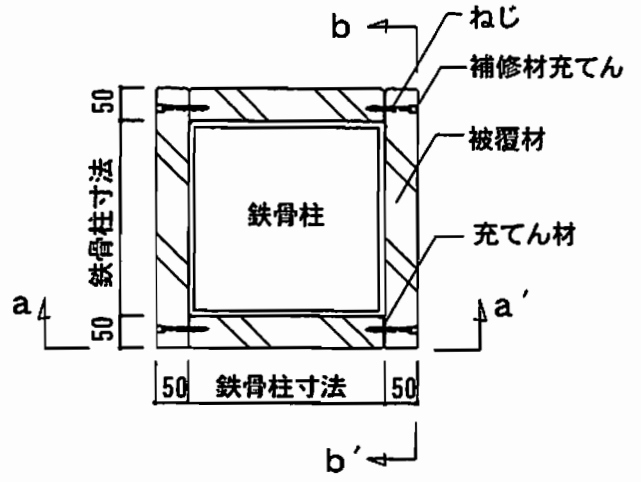
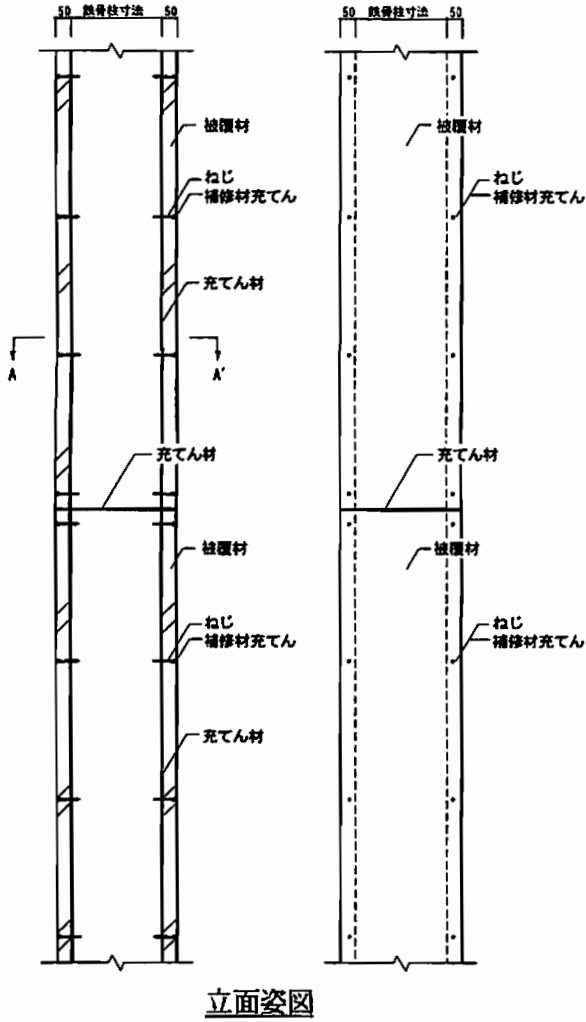
項目	申請構造														
④充てん材	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする。</p> <p>(1) アクリル樹脂系</p> <p>・組成(質量%)</p> <table><tr><td>樹脂エマルジョン</td><td>30～35</td></tr><tr><td>充てん材</td><td>50～55</td></tr><tr><td>可塑剤</td><td>5～10</td></tr><tr><td>その他</td><td>2～5</td></tr></table> <p>・使用量 70₊₂₀ g/m 以下</p> <p>(2) シリカアルミナ系</p> <p>・組成(質量%)</p> <table><tr><td>けい石</td><td>60</td></tr><tr><td>粘土</td><td>10</td></tr><tr><td>セメント</td><td>30</td></tr></table> <p>・使用量 90₊₃₀ g/m 以下</p>	樹脂エマルジョン	30～35	充てん材	50～55	可塑剤	5～10	その他	2～5	けい石	60	粘土	10	セメント	30
樹脂エマルジョン	30～35														
充てん材	50～55														
可塑剤	5～10														
その他	2～5														
けい石	60														
粘土	10														
セメント	30														
⑤接着剤	<p>(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする。</p> <p>[下地材なしの場合]</p> <p>(1) なし</p> <p>[下地材ありの場合]</p> <p>(2) アクリル樹脂系</p> <p>・組成(質量%)</p> <table><tr><td>樹脂エマルジョン</td><td>30～35</td></tr><tr><td>充てん材</td><td>50～55</td></tr><tr><td>可塑剤</td><td>5～10</td></tr><tr><td>その他</td><td>2～5</td></tr></table> <p>・使用量 50g/m 以下</p> <p>(3) シリカアルミナ系</p> <p>・組成(質量%)</p> <table><tr><td>けい石</td><td>60</td></tr><tr><td>粘土</td><td>10</td></tr><tr><td>セメント</td><td>30</td></tr></table> <p>・使用量 100g/m 以下</p>	樹脂エマルジョン	30～35	充てん材	50～55	可塑剤	5～10	その他	2～5	けい石	60	粘土	10	セメント	30
樹脂エマルジョン	30～35														
充てん材	50～55														
可塑剤	5～10														
その他	2～5														
けい石	60														
粘土	10														
セメント	30														

4. 構造説明図

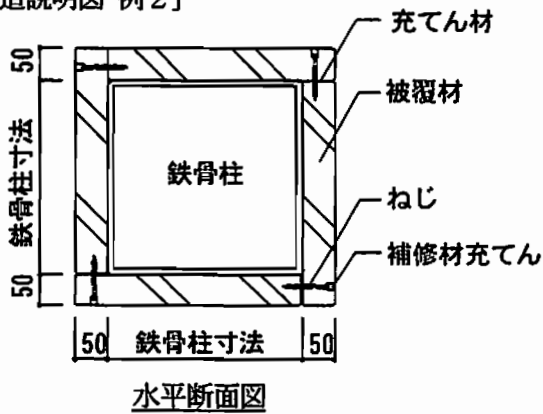
<下地材なしの場合>

(寸法単位：mm)

[構造説明図 例1]



[構造説明図 例2]

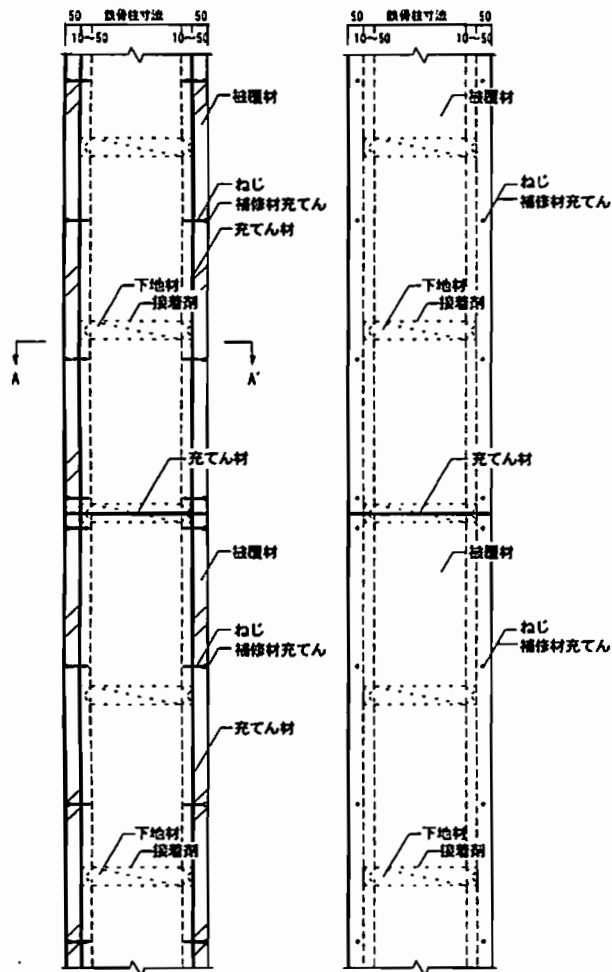


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

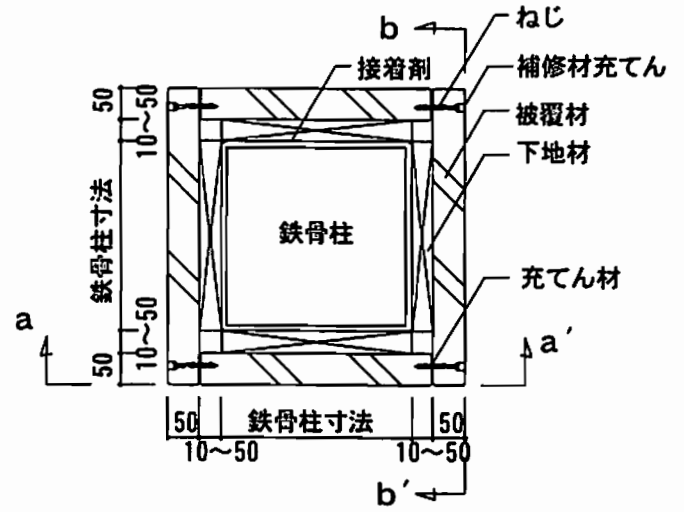
<下地材ありの場合>

(寸法単位：mm)

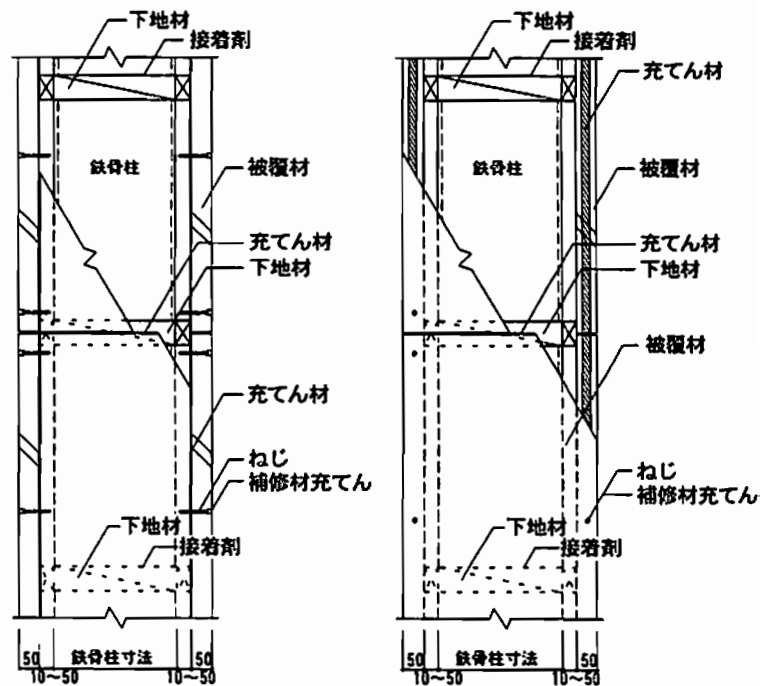
[構造説明図 例3]



立面姿図



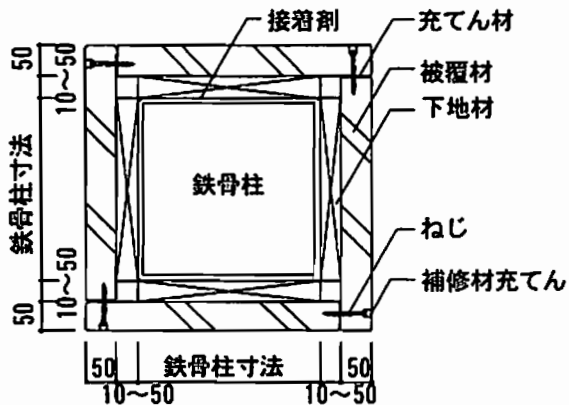
A-A' 水平断面図



a-a' 矢視図

b-b' 矢視図

[構造説明図 例4]

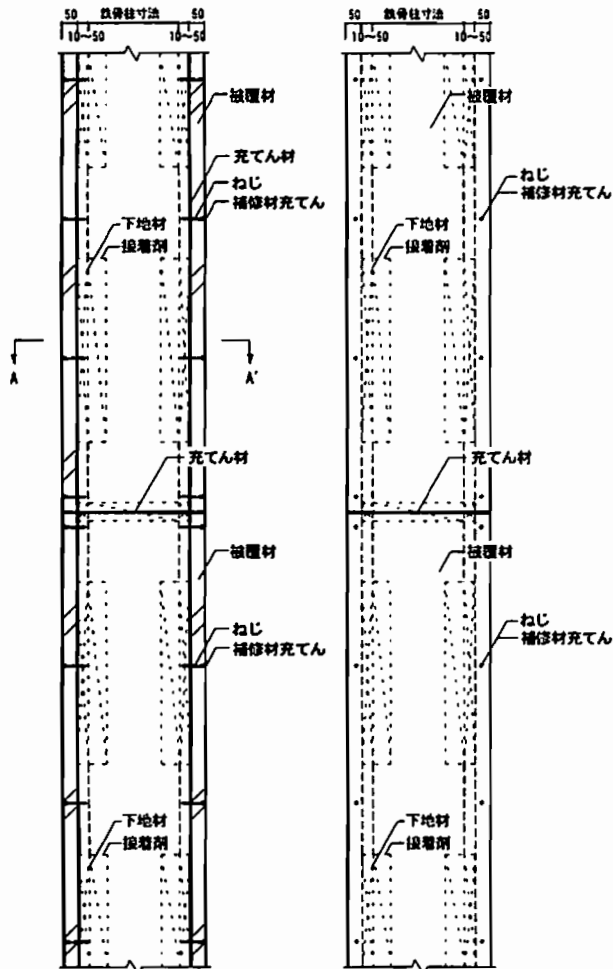


水平断面図

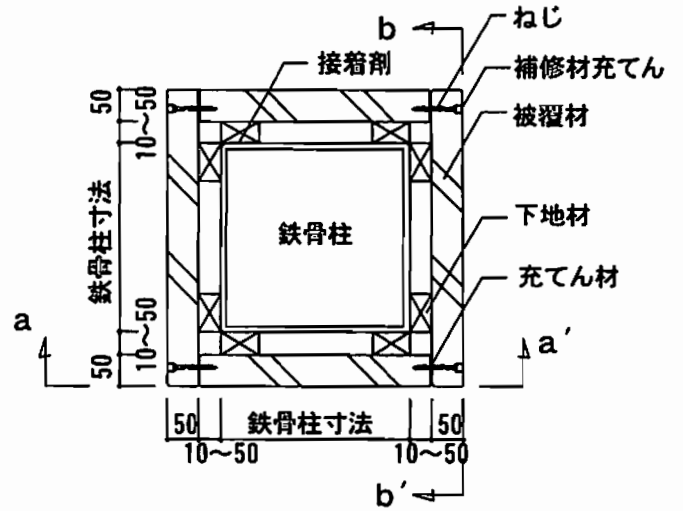
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

[構造説明図 例 5]

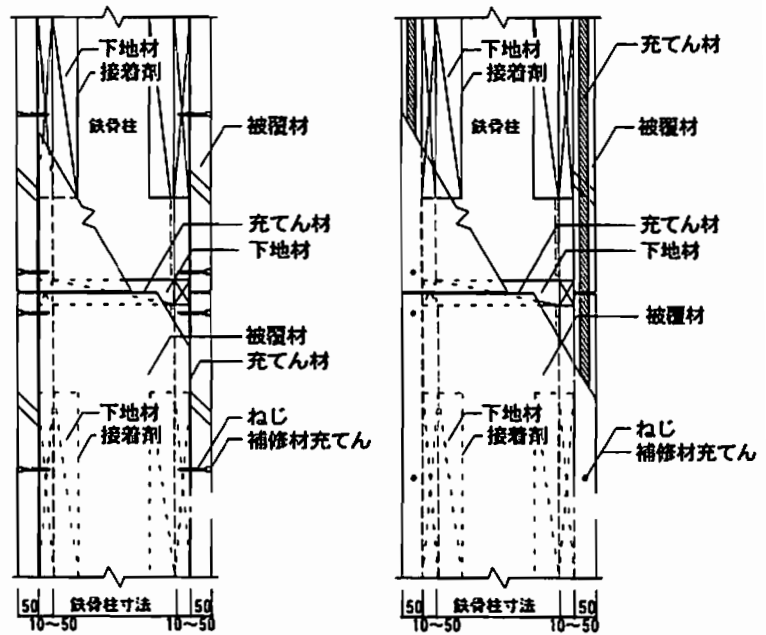
(寸法単位：mm)



立面姿図



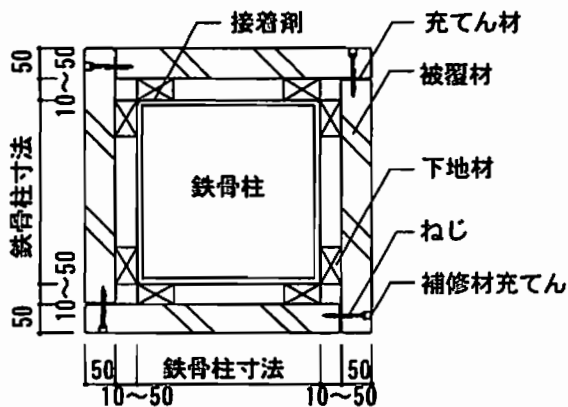
A-A' 水平断面図



a-a' 矢視図

b-b' 矢視図

[構造説明図 例 6]



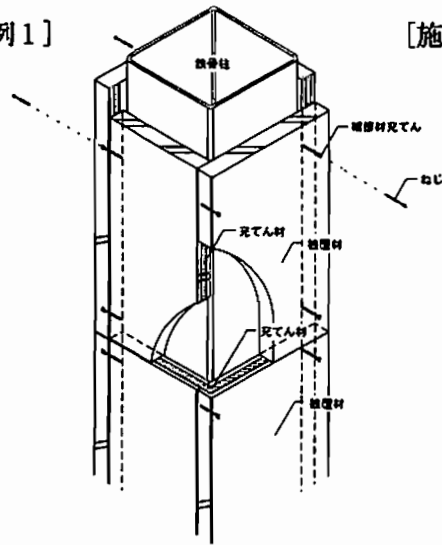
水平断面図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

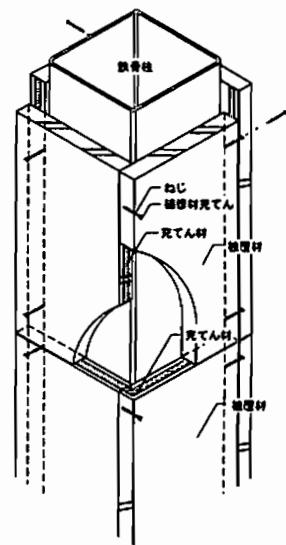
5. 施工方法等

<施工図：下地材なしの場合>

[施工図 例1]

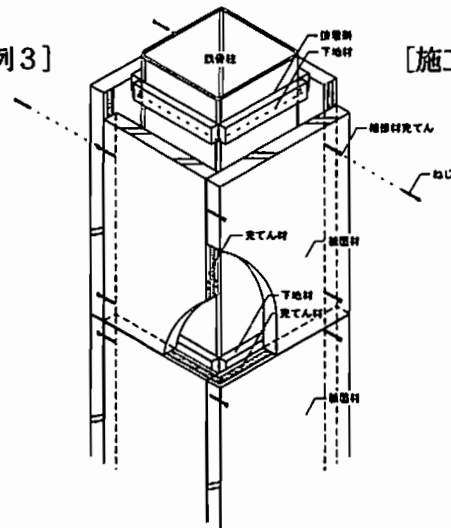


[施工図 例2]

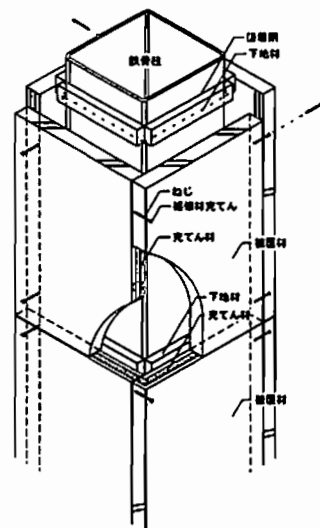


<施工図：下地材ありの場合>

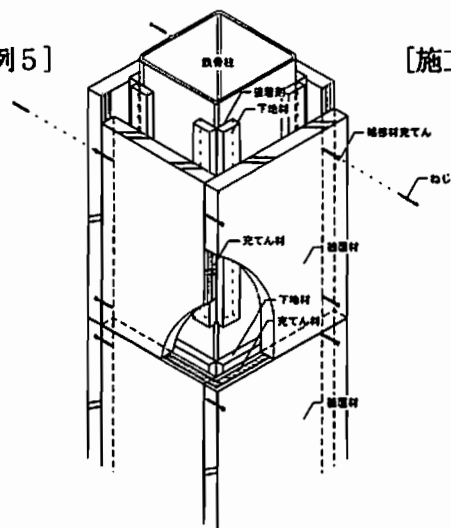
[施工図 例3]



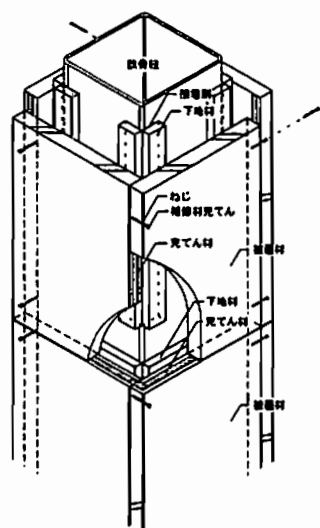
[施工図 例4]



[施工図 例5]



[施工図 例6]



＜施工手順：下地材なしの場合＞

①事前準備

- ・基準墨ならびに柱の建て方精度を確認する。
- ・基準墨を基に、被覆材の割付け墨を出す。

②被覆材の取付け

- ・被覆材の欠け等に注意しながら、施工図に従って被覆材の切断加工を行う。
- ・被覆材は、欠け等に注意しながら施工図に従って鉄骨柱を囲う様に建込み、被覆材相互が接する小口面には被覆材切断または加工時の誤差・隙間を吸収するための充てん材をビード塗布し、所定寸法となるよう圧着を行う。被覆材目地部に押し出された余剰な充てん材は除去する。
- ・被覆材取付け用ねじは、スクリュードライバー等の工具を用いて被覆材表面から小口部に向かって455mm以下の間隔でねじ込む。この際、被覆材取付け用ねじは被覆材表面より7～8mm程度沈み込ませる。

③補修および防錆処理

- ・取付けの際に出来た被覆材表面ねじ凹部には、補修材を充てんして埋め戻す。
また、被覆材取付け時に生じた被覆材の欠け等は、補修材にて補修を行う。
- ・被覆材の切断小口に露出したメタルラスは、防錆材にて防錆処理を行う。

④シーリング

- ・被覆材間目地処理の必要がない場合には、被覆材目地部の余剰充てん材の除去を確認し清掃を行い、工事完了となる。
- ・被覆材間目地処理が必要な場合には、被覆材目地部の清掃を行いシーリング材の打込みを行う。シーリング材打込み後は速やかにヘラ押さえ・ヘラ仕上げを行う。ヘラ仕上げ後は、被覆材目地部の周辺に押し出された余剰なシーリング材の除去を行い、工事完了となる。

⑤検査

- ・パネル取付け施工者およびその管理者は、パネル取付けの進捗状況に合わせて適正な自主検査を行う。
- ・工事完了後は、元請けの現場責任者立ち会いのもと、工事完了検査を実施する。

<施工手順：下地材ありの場合>

①事前準備

- ・基準墨ならびに柱の建て方精度を確認する。
- ・基準墨を基に、被覆材の割付け墨を出す。

②下地材の取付け

- ・被覆材の割付け墨を基に下地材設置位置の確認を行い、設置位置の鉄骨柱表面の清掃を行う。清掃後は、順次、下地材の鉄骨柱側となる面に接着剤をビード塗布し、鉄骨柱への圧着を行う。

③被覆材の取付け

- ・被覆材の欠け等に注意しながら、施工図に従って被覆材の切断加工を行う。
- ・被覆材は、欠け等に注意しながら施工図に従って鉄骨柱を囲う様に建込み、被覆材相互が接する小口面には被覆材切断または加工時の誤差・隙間を吸収するための充てん材をビード塗布し、所定寸法となるよう圧着を行う。被覆材目地部に押し出された余剰な充てん材は除去する。
- ・被覆材取付け用ねじは、スクリュードライバー等の工具を用いて被覆材表面から小口部に向かって455mm以下の間隔でねじ込む。この際、被覆材取付け用ねじは被覆材表面より7~8mm程度沈み込ませる

④補修および防錆処理

- ・取付けの際に出来た被覆材表面ねじ凹部には、補修材を充てんして埋め戻す。
また、被覆材取付け時に生じた被覆材の欠け等は、補修材にて補修を行う。
- ・被覆材の切断小口に露出したメタルラスは、防錆材にて防錆処理を行う

⑤シーリング

- ・被覆材間目地処理の必要がない場合には、被覆材目地部の余剰充てん材の除去を確認し清掃を行い、工事完了となる。
- ・被覆材間目地処理が必要な場合には、被覆材目地部の清掃を行いシーリング材の打込みを行う。シーリング材打込み後は速やかにヘラ押さえ・ヘラ仕上げを行う。ヘラ仕上げ後は、被覆材目地部の周辺に押し出された余剰なシーリング材の除去を行い、工事完了となる。

⑥検査

- ・パネル取付け施工者およびその管理者は、パネル取付けの進捗状況に合わせて適正な自主検査を行う。
- ・工事完了時後は、元請けの現場責任者立ち会いのもと、工事完了検査を実施する。